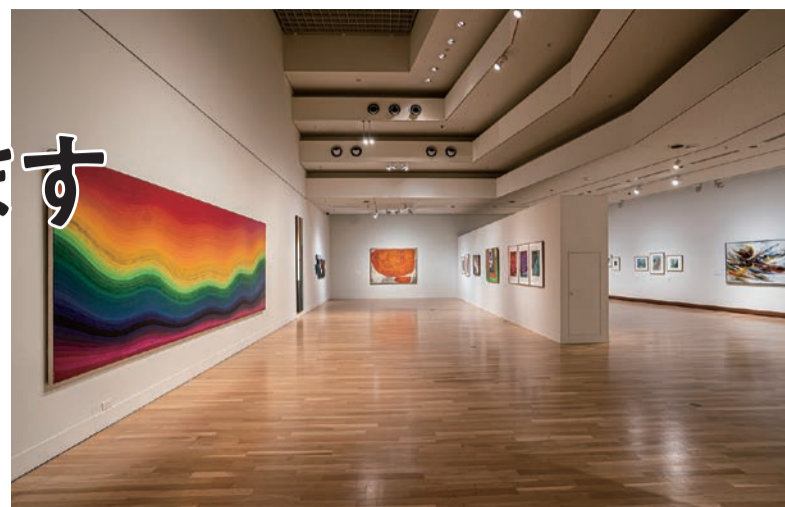




目黒区美術館は開館35周年を迎えます



緑豊かな区民センターの一角に、昭和62年に開館した目黒区美術館は、今年で開館35周年。地域に息づく身近な美術館として、多様な美術の動向をとらえた企画展を開催するほか、素材・技法に目を向けるワークショップや身近に利用できる区民ギャラリーを設けて、気軽に美術に親しめる憩いの場としても多くの区民に利用されています。

📍目黒区美術館
(目黒2-4-36 区民センター内、☎3714-1201、📠3715-9328)

Interview 親子ボランティアに聞く

地域に息づく身近な美術館でありたい これからもずっと

作品を観覧するイメージが強い美術館。しかし、多くの美術館が教育普及活動も行っており、目黒区美術館では交流を掲げ、美術館スタッフや講師、参加者が体験や空間を共有することを目指してきました。今号では、開館当時から来館し、現在はボランティアや教育普及活動グループのメンバーとして活動する山本さん親子に目黒区美術館の魅力伺いました。



山本美和さん(写真上)
目黒区美術館ボランティア。美術館所蔵の木製玩具「トイ」を用いたプログラムの企画・運営を行いトイの魅力を伝えている。

山本桃子さん(写真右)
ワークショップに参加したことをきっかけに、メグロアソビ冒険隊メンバーとして美術の教育普及活動に携わる。美和さんとは親子。

山田真規子さん(写真下)
目黒区美術館学芸員。今回は山本さん親子と一緒に美術館の魅力伝える仲間として、インタビューに参加。

夢中になれる ワークショップとの出会い

山田：当館に初めて来られたのはいつですか。

美和：開館した時の展覧会が初めてです。

桃子：私は小学校1年生の時です。その時にやっていた子ども向けのワークショップを、食い入るように見ていたと母から聞いています。

山田：一緒に当館の教育普及プログラムに参加されたのはいつですか。

美和：平成16年の展覧会「色の博物誌・黄」のファミリーワークショップに参加したのが初めてです。タマネギと、自分で集めた黄色い花を煮出して溶かし、羊毛をさまざまな黄色に染めました。何層も黄色を重ねて丸いフェルトの塊を作ったりする楽しいワークショップでした。

桃子：その時、私は10歳でしたが、今も覚えています。

山田：2人で参加したこのプログラム以外に、当館の教育普及プログラムで印象に残っているものはありますか。

桃子：たくさんあります。「電撃雷獣伝説」という子ども向けのワークショップで、ワークショップ室全体に広げた紙に、黄色をテーマにみんなで怪獣を描いたことは、とても印象に残っています。



▲平成16年に親子でワークショップに参加



▲目黒区美術館所蔵のトイ「アングーラ」

能動的に楽しめることが魅力

山田：この時、進行を務めたのは当館の教育普及を担うトイコレクションボランティアチーム(以下、TVT)でした。後に美和さんもメンバーになられましたね。

美和：娘と一緒にファミリーワークショップに参加した時、ボランティアのかたにとっても優しく接していただいたことが、後に入るきっかけとなりました。

山田：TVTは、主に当館所蔵の教材である木製玩具「トイ」を用いて、大人も子どもも楽しめるプログラムをメンバー自身が企画し、実施するプログラムをしています。美和さんは、参加者から、美術館を支え運営する側になるという経験をされて、どのように思われましたか。

美和：スタッフの一員だと思つた途端、とても責任を感じるようになりました。同時に、美術館の面白さを伝えたいなと思いました。木製玩具のワークショップは、地域の住民が誰でも気軽に参加できる、開かれた教育普及活動だと考えています。美術作品は通常、受動的に見るだけのものが多いですが、この活動では、デザイン的にも美しく、優れた作品でもあるトイを目で楽しみながら、手に取り転がしたりして遊ぶことができ、能動的に楽しめることが魅力です。



「美術館は楽しい場所」を伝えたい

山田：桃子さんはメグロアソビ冒険隊として教育普及活動にも携わっていますね。

桃子：このグループの前身は、平成20年の目黒区美術館20周年記念で、子どもたちがワークショップを企画・運営するプログラムの一環で立ち上がりました。私は平成28年から参加しています。休日に美術館に来て、3カ月ほど時間をかけて準備をしています。美術館には画材も、ユニークな展示もあり、ここで企画を考えるのはとても刺激があります。3年頃からは、近隣の小学校でも活動を始めました。

山田：これからの目黒区美術館に望むことを教えてください。

美和：今まで通り、着眼点がユニークで独創的な展覧会の開催をお願いしたいです。TVTでは、アートが日々の生活の一部となるよう、トイの普及活動を続けていきたいと思つています。

桃子：メグロアソビ冒険隊として、美術館は楽しい場所、自由に見に来られる場所、ワークショップは面白い、と伝えていきたいです。同時に、区民と美術館が深く関わるコミュニティ形成がとても大事で、これが目黒区美術館の大きな特徴でもあります。今後もアートコミュニティである目黒区美術館に関わっていきたいです。

ボランティア会の主な活動内容

開館以来、ボランティアが美術館活動を地域から支えています。活動内容は、教育普及プログラムの企画・運営、資料の整理補助、ラウンジでのカフェの運営、展覧会のポスター・チラシの発送など多岐にわたります。

●ラウンジ部

ラウンジでカフェの営業を行っています。



●学芸部

・トイコレクションボランティアチーム(TVT)
トイコレクションを活用して、区内施設への出張事業を企画・実施しています(写真①)。

・建築班

目黒区総合庁舎建築ガイドツアーの解説員を務めます。建築に関連する展覧会や催しの解説も行います(写真②)。

・資料整理班

学芸資料などの整理を行います。



●広報部

展覧会のポスター・チラシの発送作業など、美術館の広報活動に協力しています。



目黒区美術館2022夏ワークショップ「美術館はおもちゃ箱・道具箱」スケジュール

ワークショップ

①木っておもしろいぞ ～木石をつくろう

木とじっくり向き合い、削って、磨いて、石のような木石(きせき)を作ります。

📅8月6日(土)・13日(土)
10:30～17:00(全2回)

👤デザイナー 飛山裕幸氏

②紙っておもしろいぞ ～ペーパーファンタジーかめの小箱

身近な素材、紙を使って、細かく切ったり、型を使って表情をつけたり、装飾をして手のひらサイズの小箱を作ります。

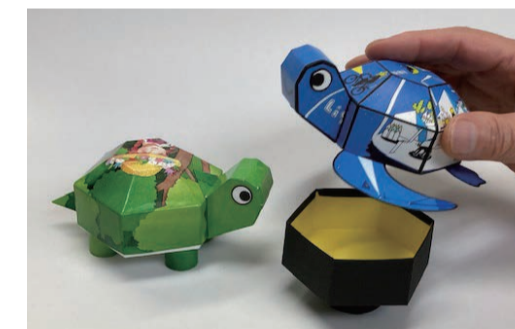
📅8月14日(日)13:00～16:00

👤ペーパーアーティスト 広井敏通氏

<①②共通>

📄材料費など1,000円 📖小学3年生以上(②は小学生は保護者同伴) 📎各10人(抽選)

申込期限 7月19日(必着)



③みんなの箱世界

～いってみよう、つくってみよう、積み木でつながるわたしの風景

箱の中に、美術館のトイコレクション(木の玩具)や木っ端を使って自分だけの世界を表現し、みんなの世界をつなげて楽しみます。

📅①8月11日(祝)②8月12日(金)13:00～16:00

👤ミュージアム・エデュケーター 清瀬ゆり亜氏、アトリエニキティキ 川島冬香氏

👤2歳以上(小学生以下は保護者同伴) 📎各6組(抽選。1組6人程度まで)

📄材料費など1組1,000円 申込期間 7月16日～25日(必着)

📍目黒区美術館📍(コード①)、ハガキ・FAX(希望講座名と日時、住所、参加者全員の氏名(ふりがな)、Eメールアドレス、電話、小・中学生は学年を記入)で、目黒区美術館(〒153-0063目黒2-4-36 区民センター内、☎3715-9328)へ



今後の展覧会

※詳細は今後の区報でお知らせします

コレクション解体新書1

フジタが目黒にやって来た

10月8日(土)～11月20日(日)

コレクション解体新書2

1970年代以降の作品を中心に

5年2月18日(土)～3月26日(日)

区立幼稚園・こども園、小・中学校連合展覧会

めぐるの子どもたち展

5年1月18日(水)～2月2日(木)